

誰にも心を許してはならない。

破戒



間宮祥太朗

石井杏奈 矢本悠馬

高橋和也 小林綾子 七瀬公 ウーイエイよしたか 大東駿介
(スマイル)

竹中直人・本田博太郎・田中要次

石橋蓮司 真島秀和

原作・島崎藤村「破戒」

監督・前田和男 脚本・加藤正人 木田紀生 音楽・かみむら周平

企画・製作・全国水平社創立100周年記念映画製作委員会
制作・東映 制作協力・配給・東映ビデオ 制作プロダクション・東映京都撮影所

©全国水平社創立100周年記念映画製作委員会

島崎藤村、不朽の名作「破戒」を
60年ぶりに映画化。

破戒

イントロダクション

島崎藤村、不朽の名作「破戒」を60年ぶりに映画化 主演・丑松役は間宮祥太郎、相手役に石井杏奈。

1948年・木下恵介監督、1962年・市川崑監督と名だたる巨匠が映画化してきました、島崎藤村・不朽の名作「破戒」。

2022年の今年、60年ぶりに『破戒』が映画化され、7月8日(金)に丸の内TOEIほかにて全国公開されます。主演を務めるのは、近年、映画『東京リベンジャーズ』やTVドラマ「ファイトソング」「ナンバMG5」に出演するなど、多彩な活躍が目覚ましい若手俳優・間宮祥太朗。自らの出自に苦悩しつつも、最後にはある告白をする主人公・丑松という難役に挑戦し、気迫のこもった演技で観る者を惹きつけます。

相手役・志保を演じるのは若手女優の中でも演技への評価が特に高い石井杏奈。丑松に恋心を寄せつつも、なかなか思いを告げられない控えめな女性を演じます。

悩める丑松を支える親友・銀之助役に、ここ最近出演作のオファーが引きも切らない若手俳優・矢本悠馬。ほか眞島秀和、高橋和也、竹中直人、本田博太郎、田中要次、石橋蓮司、大東駿介、小林綾子など名優たちが顔をそろえ、クオリティの高いドラマを作り上げています。

脚本は『クライマーズ・ハイ』『孤高のメス』『ふしぎな岬の物語』で日本アカデミー賞優秀脚本賞ほか数々の受賞歴を誇る巨匠・加藤正人と『バトル・ロワイアルII鎮魂歌』で第58回毎日映画コンクール脚本賞を受賞した木田紀生が担当し、100年以上も前の原作を現代に蘇らせるべく描き切り、一流のエンターテイメントとして昇華させました。

制作は東映京都撮影所が担当し、明治後期の時代を違和感なく高い次元で映像化しております。

監督は、椎名桔平主演の映画『発熱天使』(高崎映画祭招待作品)やキネマ旬報「文化映画部門」ベストテン7位の『みみをすます』(教育映画祭最優秀賞・文部科学大臣賞)を監督した前田和男。

かつての名作を2022年、現代最高レベルのキャスト、スタッフで映画化いたしました。

この戒めを破り、明日を生きる――

瀬川丑松(間宮祥太朗)は、自分が被差別部落出身ということを隠して、地元を離れ、ある小学校の教員として奉職する。彼は、その出自を隠し通すよう、亡くなった父からの強い戒めを受けていた。

彼は生徒に慕われる良い教師だったが、出自を隠していることに悩み、また、差別の現状を体験することで心を乱しつつも、下宿先の士族出身の女性・志保(石井杏奈)との恋に心を焦がしていた。

友人の同僚教師・銀之助(矢本悠馬)の支えはあったが、学校では丑松の出自についての疑念も抱かれ始め、丑松の立場は危ういものになっていく。苦しみのなか丑松は、被差別部落出身の思想家・猪子蓮太郎(眞島秀和)に傾倒していく。

猪子宛に手紙を書いたところ、思いがけず猪子と対面する機会を得るが、丑松は猪子にすら、自分の出自を告白することができなかった。そんな中、猪子の演説会が開かれる。

丑松は、「人間はみな等しく尊厳をもつものだ」という猪子の言葉に強い感動を覚えるが、猪子は演説後、政敵の放った暴漢に襲われる。

この事件がきっかけとなり、丑松はある決意を胸に、教え子たちが待つ最後の教壇へ立とうとする。

プロフィール

●間宮祥太朗

1993年生まれ。神奈川県出身。TVドラマ「スクラップ・ティーチャー～教師再生～」(08)で俳優デビュー。映画、ドラマ、舞台、CMなど多彩なジャンルで活躍し、2017年『全員死刑』(監督:小林勇貴)で映画初主演、18年にはNHK連続テレビ小説「半分、青い。」に出演し、全国的な人気を博す。2022年の今年はTVドラマ「ファイトソング」「ナンバMG5」に立て続けに出演。映画では『ライチ☆光クラブ』(16／監督:内藤瑛亮)、『帝一の國』(17／監督:永井聰)、『不能犯』(18／監督:白石晃士)、『翔んで埼玉』(19／監督:武内英樹)、『ホットギミック ガールミーツボーイ』(19／監督:山戸結城)、『殺さない彼と死なない彼女』(19／監督:小林啓一)、『Red』(20／監督:三島由紀子)『東京リベンジャーズ』(21／監督:英勉)など話題作に出演



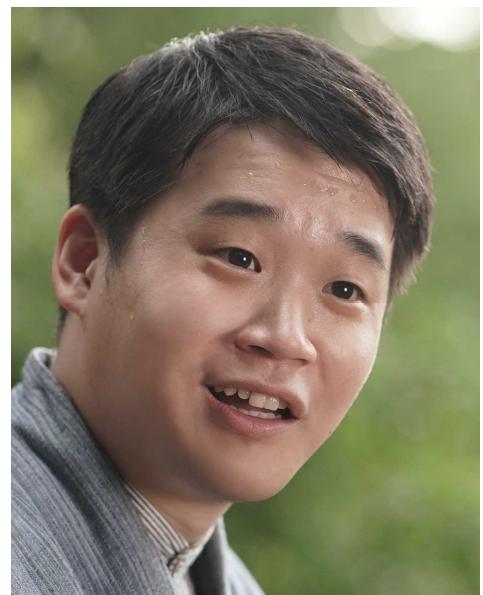
●石井杏奈

1998年生まれ、東京都出身。『ソロモンの偽証 前篇・事件/後篇・裁判』(15／監督:成島出)と『ガールズ・ステップ』(15／監督:川村泰祐)の2作でブルーリボン賞新人賞を受賞。テレビドラマ「仰げば尊し」(16)では、コンフィデンスアワード・ドラマ賞新人賞を受賞。その他「東京ラブストーリー」(20)、「シェフは名探偵」(21)、「ゴシップ #彼女が知りたい本当の〇〇」(22)に出演。映画の出演作では、『心が叫びたがってるんだ。』(17／監督:熊澤尚人)、『ブルーハーツが聴こえる』の一編「1001のバイオリン」(17／監督:李相日)、『記憶の技法』(20／監督:池田千尋)、『ホムンクルス』(21／監督:清水崇)などある。近作では『碎け散るところを見せてあげる』(21／監督:SABU)で主演を務める。2022年8月に東宝×NHKミュージカル「みんなのうた」でミュージカルに初挑戦する。



●矢本悠馬

1990年生まれ。京都府出身。2003年に『ぼくんち』(監督:阪本順治)でスクリーンデビュー。映画では『アイネクライネナハトムジーク』(19／監督:今泉力哉)、『屍人荘の殺人』(19／監督:木村ひさし)『今日から俺は!!劇場版』(20／監督:福田雄一)、『新解釈・三国志』(20／監督:福田雄一)『賭ケグルイ 絶体絶命ロシアンルーレット』(21／監督:英勉)など立て続けに話題作に出演。TVドラマではNHK連続テレビ小説「半分、青い。」(18)、「今日から俺は！！」(18)、「べしやり暮らし」(19)、「明治開花 新十郎探偵帖」(20)、「教場Ⅱ」(21)、「SUPER RICH」(21)など多数出演。CMや舞台でも幅広く活躍している。



●高橋和也

1969年生まれ、東京都出身。88年、男闘呼組として音楽デビュー。男闘呼組主演の映画『ロックよ 静かに流れよ』(88/監督:長崎俊一)、舞台では「ペールギュント」(90/演出:蜷川幸雄)、「スラブボーイズ」(93/演出:ロバート・アラン・アッカーマン)等がある。93年に解散後、1年近くのアメリカ放浪の旅の後、舞台「NEVER SAY DRAEM」(94/演出:栗山民也)、映画『KAMIKAZE TAXI』(95/監督:原田眞人)で俳優活動を本格的に開始。以後、その確かな演技力によって、舞台、映画、TVにと幅広く活躍。また、ラジオドラマ、韓国ドラマの吹き替え、文学作品の朗読、ナレーションなど声の仕事でも活躍している。音楽活動もライブハウスを中心にマイペースで続けている。近年の主な映画出演作に『そこのみにて光輝く』(14/監督:呉美保)、『あゝ、荒野 前篇・後編』(17/監督:岸善幸)、『新聞記者』(19/監督:藤井道人)『今はちょっと、ついてないだけ』(22/監督:柴山健次)など。



●小林綾子

1972年生まれ、東京都出身。幼少期より東映児童演技研修所に所属し、タレント活動をスタートさせる。1983年放送の連続テレビ小説「おしん」では、主人公の少女時代を好演して人気を博す。以後も映画・ドラマ・舞台のほか、現在は旅番組や情報バラエティーでも活躍している。主な出演作に、映画では『ホタル』(01/監督:降旗康男)、『ヘレンケラーを知っていますか』(07/監督:中山節夫)、『海難1890』(15/監督:田中光敏)、『瞽女GOZE』(20/監督:瀧澤正治)、『スーパー戦闘 純烈ジャー』(21/監督:佛田洋)。舞台では「おしん」(95)、「雪国」(00)。テレビでは「剣客商売」シリーズ(98~)、「渡る世間は鬼ばかり」シリーズ(98~)、NHK連続テレビ小説「なつぞら」(19)などがある。2023年春には『仕掛け人・藤枝梅安』(監督:河毛俊作)の公開が控えている。



●大東駿介

1986年生まれ、大阪府出身。雑誌モデルを経て2005年、ドラマ『野ブタ。をプロデュース』で俳優デビュー。09年にはNHK連続テレビ小説「ウェルかめ」ヒロインの相手役で出演し注目を集め。以後、テレビドラマや、舞台、映画多数の作品に出演。主な出演作品に、ドラマでは「新・ミナミの帝王」シリーズ(10~)、NHK大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺～」(19)、「うきわ」(21)、「前科者」(21)。映画では『クローズZERO』(07, 09/監督:三池崇史)、「望郷」(17/監督:菊地健雄)、「曇天に笑う」(18/監督:本広克行)。『37seconds』(20/監督:HIKARI)。2022年夏には『バイオレンスアクション』(監督:瑠東東一郎)の公開を控えている。



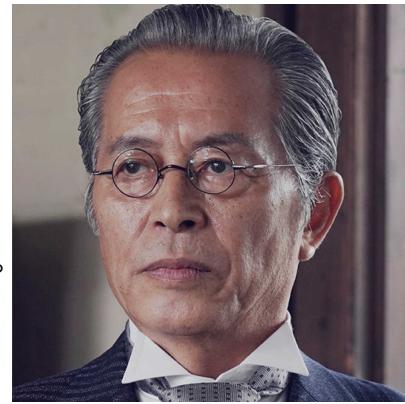
●竹中直人

1956年生まれ。神奈川県出身。多摩美術大学美術学部グラフィックデザイン学科在学中に、劇団「青年座」に入団。演劇活動を続けながら、バラエティ番組に出演し注目を集め。「元祖おじやまんが山田くん」(84)でドラマデビュー。以後、テレビドラマや、舞台、映画多数の作品に出演。『Shall we ダンス?』(96/監督:周防正行)で日本アカデミー賞最優秀助演男優賞を受賞。映画監督、画家、ミュージシャンとしても幅広く活躍し、初監督作『無能の人』(91)がヴェネチア国際映画祭で国際批評家連盟賞を受賞し国内外で認められる。主な出演作品に、『シコふんじゃった』(92/監督:周防正行)、「カツベン!」(19/監督:周防正行)、「翔んで埼玉」(19/監督:武内英樹)、「サムライマラソン」(19/バーナード・ローズ)、「麻雀放浪記2020」(19/監督:白石和彌)などがある。



●本田博太郎

1951年生まれ。茨城県出身。79年、蜷川幸雄氏演出の舞台「近松心中物語」「ロミオとジュリエット」でゴールデン・アロー賞演劇部門新人賞を受賞。現代劇からドラマ「剣客商売」「鬼平犯科帳」などの時代劇まで多方面で活躍している。主な出演作に、映画では『カミュなんて知らない』(06／監督：柳町光男)、『それでもボクはやってない』(07／監督：周防正行)、『桜田門外ノ変』(10／監督：佐藤純彌)、『藁の楯』(13／監督：三池崇史)など。その熟練した演技には定評があり、日本を代表するバイプレイヤーの一人である。書家として出演作品の毛筆題字を数多く手掛けており、TVドラマ「父からの手紙」(07)や「悪い奴ほどよく眠る」(10)などの題字を担当した。



●田中要次

1963年生まれ、長野県出身。ミュージックビデオ「佐木伸誘/SEEK AND FIND」(90／監督：山川直人)でデビュー。映画『無能の人』の照明助手から始め、俳優業と並行しながら録音助手や付き人などのスタッフ業務も経験し、数多くの映像製作に携わる。TVドラマ「HERO」(01)のバーテンダー役が話題となり、数多くのTVドラマ・CM・バラエティー番組などに出演。『蠱毒ミートボールマシン』(17、監督：西村喜廣)で映画初主演を飾る。近年の主な出演作に、『実りゆく』(20／監督：八木順一郎)、『あなたの番です 劇場版』(21／監督：佐久間紀佳)、『大怪獣のあとしまつ』(22／監督：三木聰)。また『太陽とボレロ』(監督：水谷豊)、『大事なことほど小声でささやく』(監督：横尾初喜)の公開が控えている。



●石橋蓮司

1941年生まれ、東京都出身。劇団「第七病棟」主宰。中学生時代から劇団に所属。1954年、映画「ふろたき大将」の主役に抜てきされデビュー。『公園通りの猫たち』(89／監督：中田 新一)『浪人街 RONINGAI』(90／監督：黒木和雄)、『われに撃つ用意あり READY TO SHOOT』(90／監督若松孝二)で、第14回日本アカデミー賞最優秀助演男優賞を受賞。幅広い役柄で存在感を示している。近年の主な出演作に、映画では『アウトレイジ』(10／監督：北野武)、『今度は愛妻家』(10／監督：行定勲)、『超高速! 参勤交代』シリーズ(14・16／監督：本木克英)、『孤狼の血』(18／監督：白石和彌)、『妖怪大戦争 ガーディアンズ』(21／監督：三池崇史)など多数出演。また『一度も撃ってません』(20／監督：阪本順治)では19年ぶりの映画主演となり話題となった。



●眞島秀和

1976年生まれ。山形県出身。高校卒業後にぴあフィルムフェスティバルグランプリ受賞作・自主製作映画『青/chong』(00／監督：李相日)の主演でデビュー。映画・ドラマ・舞台など幅広い分野で活躍し、TVドラマ「隣の家族は青く見える」(18)、社会現象化した「おっさんずラブ」(18)など話題作に出演し、人気バイプレイヤーとしての地位を確立している。その他の出演作に、映画では『心に吹く風』(17／監督：ユン・ソクホ)、『愚行録』(17／石川慶監督)、『劇場版 おっさんずラブ ~LOVE or DEAD~』(19／監督：瑠東東一郎)、『蜜蜂と遠雷』(19／監督：石川慶)、『夏への扉 -キミのいる未来へ-』(21／監督：三木孝浩)など。TVドラマ「おじさんはカワイイものが好き。」(20)「#居酒屋新幹線」(21)では主演を務め、「ガイアの夜明け」(テレビ東京系)ではナレーションも務めている。自身のルーツを辿りながら、故郷、米沢の魅力を紹介するPHOTOBOOK「HOME」が22年4月に発売された。



監督 ■ 前田和男

1956年生まれ。脚本家・大津皓一氏に師事し脚本技術を学ぶ。その後、国際放映、東宝、大映、東映でテレビドラマの助監督を勤める。1981年CMで監督デビュー。映像博と呼ばれた1985年『つくば科学博』では、4つのパビリオンの演出・プロデュースを担当し、特に日本政府館では、日本各地の土着の文化を掘り起こした大型映像に注目が集まった。以後、映画、CM、ドラマ、大型展示映像、プロモーションビデオ、教育映画の監督、および劇画原作などで現在に至る。主な作品に高崎映画祭招待作品の映画『発熱天使』(監督・脚本、99年／主演：椎名桔平)、キネマ旬報「文化映画部門」ベストテン7位および教育映画祭最優秀賞・文部科学大臣賞受賞の『みみをします』(監督、05年)がある。

脚本 ■ 加藤正人

1954年生まれ。早稲田大学大学院客員教授、東北芸術工科大学映像学科教授、シナリオ作家協会会長、理事長を歴任。日本アカデミー賞優秀脚本賞を第38回『ふしぎな岬の物語』(15／監督：成島出)、第34回『孤高のメス』(11／監督：成島出)、第32回『クライマーズ・ハイ』(09／監督：原田真人)で受賞。映画『雪に願うこと』(06／監督：根岸吉太郎)で第18回東京国際映画祭グラントプリ、毎日映画コンクール脚本賞を受賞。その他、映画『凪待ち』(19／監督：白石和彌)やNetflix配信ドラマ『火花』(16／監督：廣木隆一他)の脚本統括。2022年は映画『Gメン』(主演：岸優太(King & Prince)、監督：瑠東東一郎)が控える。

脚本 ■ 木田紀生

1970年生まれ。早稲田大学商学部卒。映像制作会社勤務、フリーの助監督などを経て、1994年映画『突然炎のごとく』で脚本家デビュー。以降、映画やテレビドラマの脚本など様々な分野で活躍。2021年～京都芸術大学映画学科専任講師。映画『バトルロワイアルII 鎮魂歌』(03／監督：深作欣二・深作健太)にて第58回毎日映画コンクール脚本賞受賞。





企画・製作 全国水平社創立100周年記念映画製作委員会

制作 東映株式会社

制作協力・配給/宣伝 東映ビデオ株式会社

制作プロダクション 東映株式会社京都撮影所

上映時間 119分

原作：島崎藤村『破戒』

脚本：加藤正人／木田紀生 監督：前田和男 音楽：かみむら周平

キャスト：間宮祥太朗 石井杏奈 矢本悠馬 高橋和也 小林綾子 七瀬 公

ウエイエイよしたか(スマイル) 大東駿介

竹中直人／本田博太郎／田中要次 石橋蓮司 真島秀和

©全国水平社創立100周年記念映画製作委員会

■公式サイト <http://hakai-movie.com/>

<お問い合わせ>

〔代表アドレス〕 hakai@manhattanpeople.co.jp

【紙】 長村亜紀（フリーランス）080-6509-4546

【WEB】 村井卓実（フリーランス）090-9681-8549

【電波】 アティカス 三原（090-3949-6818）、新藤（080-9750-9783）

【宣伝】 東映ビデオ 配給宣伝室 手嶋亮介 teshima@toei-video.co.jp TEL：03-3545-4526

7月8日（金）丸の内TOE Iほか全国ロードショー